

使徒言行録 22 章 12 節～16 節 ダマスコにはアナニアという人がいました。律法に従って生活する信仰深い人で、そこに住んでいるすべてのユダヤ人の中で評判の良い人でした。この人がわたしのところに来て、そばに立ってこう言いました。『兄弟サウル、元どおり見えるようになりなさい。』するとそのとき、わたしはその人が見えるようになったのです。アナニアは言いました。『わたしたちの先祖の神が、あなたをお選びになった。それは、御心を悟らせ、あの正しい方に会わせて、その口からの声を聞かせるためです。あなたは、見聞きしたことについて、すべての人に対してその方の証人となる者だからです。今、何をためらっているのです。立ち上がりなさい。その方の名を唱え、洗礼を受けて罪を洗い清めなさい。』」

パウロは復活の主イエスの声を聞いた。パウロが「主よ、どうしたらよいでしょうか」と問うと、「立ち上がってダマスコへ行け、しなければならないことは、すべてそこで知らされる」と答えた。この時、パウロは光の輝きのために目が見えなくなっていた。一緒にいた人に手を引かれて、ダマスコに入った。

ダマスコに、律法に従って生活する信仰深い人で、ダマスコに住んでいる全てのユダヤ人の中で評判の良いアナニアという人がいた。パウロはアナニアを律法に忠実でユダヤ人に信頼されていたと強調している。彼が私の所に来て、傍に立ち、「兄弟サウル、元どおり見えるようになりなさい」と言った。すると、アナニアの姿が見えるようになった。彼はパウロに下記のように言った。①「わたしたちの先祖の神が、あなたをお選びになった」。神がパウロを選んだ。旧約ではモーセ、イザヤ、エレミヤ、新約ではペトロなどが神に選ばれた人として描かれている。彼らは皆、苦悩の生涯を歩まされている。神に選ばれた者は、神に従ったがために、苦難を負う者とされている。②「それは、御心を悟らせ、あの正しい方に会わせて、その口からの声を聞かせるためです」。神の人間を救うという御心を知らせ、正しい主イエスと出会い、主イエスの声を聞かせる。キリスト教信仰は、他の誰でもなく、ただ主イエスの言葉を聞くことから始まるからである。③「あなたは、見聞きしたことについて、すべての人に対してその方の証人となる者だからです」。主イエスから見聞きしたことを、全ての人々に、主イエスの証人として、福音を宣教する者となる。④「今、何をためらっているのです。立ち上がりなさい」。ためらう時ではない。自分の足でしっかり、立ち上がりなさい。⑤「その方の名を唱え、洗礼を受けて罪を洗い清めなさい」。主イエスの名を唱え、主イエスの名によって、洗礼を受けなさい。そして、罪を洗い清め、赦しに与りなさい。

パウロの復活の主イエスとの出会いは、使徒言行録 9 章に記されている。アナニアは、主がパウロを訪ねよと言われた時、キリスト信者を迫害しているパウロの所には行きたくないと言っている。主から強く促され、意を決してパウロを訪ね、「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです」と言った。すると、パウロの目からうるこのようなものが落ち、見えるようになったと記している。パウロにとって、アナニアと出会い、彼から教えられたことの意味は大きい。パウロの回心はアナニアに負っていることは確かである。